

観成園だより

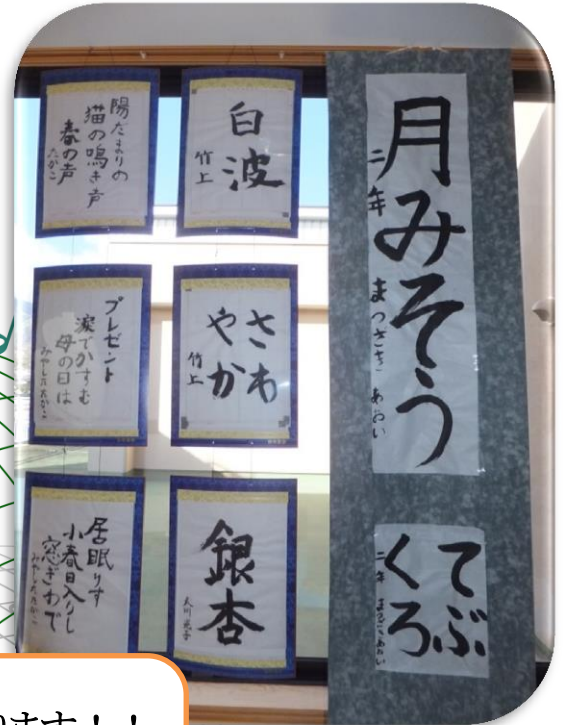
発行：特別養護老人ホーム 観成園
長野県駒ヶ根市赤穂 3214-1
tel(0265)83-1611 fax(0265)83-1616
ホームページ：http://inanfukushi.or.jp

秋



寒い日が続きますが
すっかり秋ですね！！

作品展



今年も色々な作品が飾ってあります！！

12/10まで。ぜひ見に来てください！！

紅葉ドライブ



秋の散策に
行きました！！
今年度はご家族の方も参
加し、ともに出かけられる
方もいました！！



【趣味・好きなことは？】

家庭菜園・飲酒・映画鑑賞（喜劇）・
音楽鑑賞（中島みゆき）・カラオケなど。
料理教室、スイミングに通っています。

【医師になったきっかけは？】

父親は富山の薬売りだったがそれでは将来の
見込みがないと思い医師になりました。



観成園主治医：中谷 Dr. 紹介

若い 4 人で毎日走りまわって

頑張っております！！



医務室紹介



演歌体操 はなみずき 紹介

佐藤利子さん(左上) 中嶋清恵さん(右上)

竹澤豊さん(左下) 勝好子(右下)

※代表北原よしゑさんをはじめ約 60 人のメンバ
ーがいます。

長野県ご当地体操フェスティバル 3 位

10/1 に武道館で行われた全国大会に出場
しました。

【活動内容】

- ・ 芸能祭
- ・ J A 祭
- ・ 元気いきいき体操フェスティバル
- ・ 県外にも招待される事もあります。

編集後記:

季節は変わり、寒い日が増えてきましたね。体調には気をつけましょう。

さて、今月号より 4 ページ目に短編小説を載せています。ぜひ読んでみてください！！

その人は花壇の傍にいつも佇んでいた。

「こんにちは」

そう声をかけると振り返るその人。男の人なのに花をずっと見ているのがおかしくて声をかけたのだ。

「やあ、こんにちは」

彼はそう返した。顔を上げればその人は友人たちがうわさをしていた男の人で。うちの学年では一番モテるとうわさされている人だった。

「君も話に来たの？」

「へ？」

彼はそう尋ねてきた。

意味不明な言葉にさすがに返せずにいると彼は困ったように笑った。

「ごめんね。違うようだ」

「あの・・・」

「今のは忘れて」

彼はそう言うとその場を去った。

次の日、また次の日。

彼は変わらずに花壇の前にいる。移動教室などで彼を見かけることもあったが決して友人がいないわけではないのに気が付くとそこにいるのだ。

まるで不思議な彼に私の好奇心はうずいた。しかしあるとき彼は花壇を見つつ静かに呟いていた。

「また・・・お別れが近いね」

その声は消えそうなほどにさびしそうだった。

ある日のことだ。

彼がまた花壇の前にはいた。その手には枯れてしまった花が乗せられていた。私が声をかけるとあの日のように彼は私を見た。

「その花・・・」

「どうやら寿命だったみたいだね。でも彼女はととても満足していたよ」

彼はそう言って笑った。まるで花が話しか

けてきたように話す彼に私は思わず問う。

「花の言葉がわかるの？」

すると彼は微笑んだ。

「君には木の言葉がわかるのかい」

その意味を理解する事はできなかった。

それから月日が経ち、紅葉も終わりを迎えた頃。それでも彼は花壇の前にはいた。もう花壇にあった花は全て枯れてしまい、そこには何もなかったのに彼はそこにいた。

「花、もうないけど」

私は彼に言う。すると彼は振り返り微笑んだ。

「見ればわかるよ」

「じゃあ何をしているの」

「落ちるのを待っているのさ」

落ちる・・・？

不思議に思っていると目の前に落ちてきた枯葉。それは花壇のそばにあった大きないちじょうの木だった。

「この木のこと？」

そう尋ねると彼は声を出して笑った。

「ははは。やっと気付いたんだね」

彼はそのまま木に手を伸ばした。

「この木はもうすぐ寿命を迎えるんだ。だから僕は毎日彼の話し相手をしていたんだよ」

「彼って・・・木の？」

「そう。僕も木だからね」

「・・・へ？」

彼の言葉に驚く。すると彼は不思議そうに笑った。

「気が付かなかった？意外とわかりそうなのに」

「ほんとに？」

「ふふっ。僕の名前は銀杏恋(いちじょうれん)。裏の山のイチヨウの木さ」

彼はそう笑った。

これが私と銀杏(いちじょう)君の出会いだった。

君の言葉